

大館の歴史散歩

古記録・紀行文
を歩く ⑦

古記録にあらわれた埋没家屋

江戸時代の紀行家、菅江真澄は、埋没家屋発見の珍らしい記録を、著書『贅能辞賀楽美』と『桜がり』の中に残している。

前者では、菅江真澄が享和三年

(一八〇三)六月、真中の大披から出川に向かう途中、案内人が話してくれたことを「二十年の昔になろうか、引欠川のこのはぶかけ(高い崖)が洪水のため崩れ落ち、その中から家が二、三軒出た」(大意)と記している。一方、後者には「出川を引欠川という川が流れ、安永四年(一七七五)四月某日の洪水で岸が崩れて、土中から家が三、四戸出た」(大意)と見える。

板沢村から出土した祝慶の写生

(『新古祝慶品類之図』)



前者に記されている享和三年の二十年くらい前と言うと、安

永から天明の間となり、後者に記されている年代とほぼ一致することから、同じ出土家屋について記したのではないかと推察される。

両者ともに、家屋の中から粟、稗などの穀物、机、筆、硯、板彫り又は板に墨書の仏、饗、瓶、子、小鉢、祝慶、折敷、木の鋤、長さ二間の船棹、木杵などの遺物が発見されたこと記している。

また、『桜がり』の中には、寛政五年(一七九三)ころから四年の間、毎年引欠川の岸が崩れて板沢村の市重郎の畑から五、六戸ほどの家が出た」(大意)とも記している。

菅江真澄は、『新古祝慶品類之図』に、引欠川の岸崩れにより出たという祝慶を写生しているが、その祝慶の存在については未確認のみである。

家屋が埋もれた原因については、『桜がり』の中に「天長五年(八二八)におほなるのゆりし事後記(日本後記)に見えたり」とあることから、地震が原因で埋まってしまったと言う説と、「藤の葉の散り雑り」、つ

まり家屋といっしょに藤の葉も発見されたことから、五月雨のころの洪水によって埋もれたと言う説の二つがあるが、いずれが原因なのかは分かっていない。『贅能辞賀楽美』の中の一節に、「行きかふ人のふめば、しとくと鳴りぬ。いまだ土の底には屋形どもの埋て尚あらんと、まだ家屋が埋まっているらしいと言うことも述べている。出川から板沢までの引欠川沿いに続くはぶかけのどこかに、埋もれたままになっている家屋は、今度どのような形で、姿を現わしてくれるのであろうか。古代へのロマンを駆り立ててくれる記録である。

市役所史跡探訪会

私の本棚

中央図書館新着図書

『邪馬台国が見える!』

NHK取材班編

日本放送出版協会

女王卑弥呼が君臨した邪馬台国の所在はどこのか? 反響を呼んだ吉野ヶ里遺跡発掘を通して、日本古代史に夢をはせる歴史ロマン。



一般書

- ◇シングル・アゲイン (山下勝利)
- ◇向島物語 (小杉健治) ◇法廷解剖学 (和久峻三) ◇ヴィーナスのえくぼ (加賀乙彦) ◇指輪の重さ (阿木耀子) ◇目玉 (吉行淳之介) ◇ルームメイト (村田喜代子) ◇時間の砂 [上・下] (シェルダン) ◇寝そべる風 (池部良) ◇悲郷 (笹倉明) ◇眠れぬ夜の報復 (岡嶋二人) ◇君は優しい心理学 (堀田あけみ) ◇暗殺剣 [上・下] (南原幹雄) ◇武王の門 [上・下] (北方謙三) ほか

児童書

- ◇犬はすてきな友だち (井上こみち)
 - ◇こうえんのいちにち (ゾロトウ)
 - ◇ゴロちゃんのウンチ大作戦 (原のぶ子) ほか
- 11月のテーマ関連図書コーナー 『金と銀』
親子読み聞かせ会

毎週金曜日 午後2時30分から

中央図書館の休館日 11月19日、22日、23日

市民文化会館主催事業ご案内

文化庁移動芸術祭

チャイコフスキー記念東京バレエ団公演

くるみ割り人形

演奏 東京シティフィルハーモニック管弦楽団

とき 11月27日(月) 午後6時30分開演
入場料 S席 4,000円 A席 3,500円 B席 1,500円

演劇の夕べ

釈迦内枢唄

出演 浅利香津代 ほか

とき 11月28日(火)
午後6時30分開演
入場料 1,500円(全席自由)



※チケットは下記のプレイガイドでどうぞ

プレイガイド

市民文化会館、秋北バス本社観光案内所(1丁目)、秋北ホテルターミナル旅行案内所、いとく大館ショッピングセンター、又久書店(大町)、大森商店(花岡)、阿部履物店(十二所)、正札竹村